

## 4.8 地盤

### (1) 現況調査

#### 1) 調査内容

##### ① 地盤沈下の状況

調査項目は、地盤沈下の範囲及び沈下量とする。

##### ② 地形・地質の状況

調査項目は、地形の状況、地質の状況（表層地質及び軟弱地盤の分布状況等）とする。

##### ③ その他の予測・評価に必要な事項

調査項目は、地下水利用、土地利用の状況とする。

#### 2) 調査方法

##### ① 既存資料調査

###### (ア) 地盤沈下の状況

地盤沈下の範囲及び沈下量については、埼玉県地盤沈下調査報告書等の既存資料を整理する。

###### (イ) 地形・地質の状況

地形の状況、地質の状況（表層地質）については、地形図や地形分類図、表層地質図等の既存資料を整理する。

計画地における地質の状況（軟弱地盤の分布状況等）については、計画地において実施した地盤調査報告書（平成29年12月）のボーリング調査結果を整理する。

###### (ウ) その他の予測・評価に必要な事項

地下水利用、土地利用の状況については、土地利用現況図等の既存資料を整理する。

#### 3) 調査地域・地点

##### ① 既存資料調査

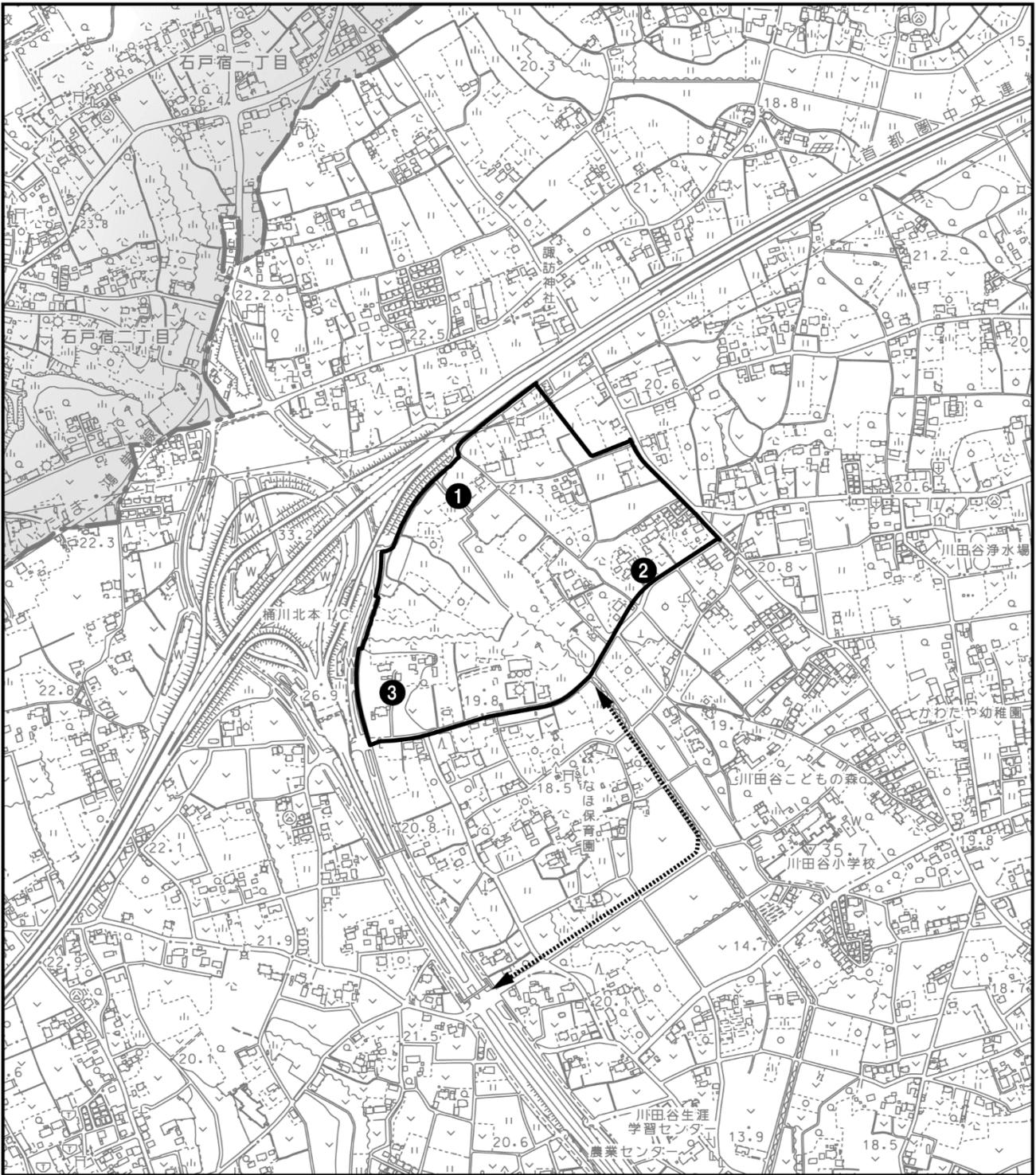
調査地域は、計画地及び周辺とする。

ボーリング調査の調査地点は、図 4.8-1 に示すとおり、計画地内の3地点とする。

#### 4) 調査期間・頻度

##### ① 既存資料調査

調査期間・頻度は、入手可能な最新年とする。

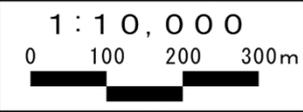


この地図は「10000分の1白図（桶川市）」（平成29年3月）を使用して作成したものである。

凡 例

- 計画地
- アクセス道路
- 市町界
- ボーリング調査地点

図 4.8-1 計画地における既存ボーリング調査地点



## (2) 予測

### 1) 予測内容

#### ① 造成地の存在に伴う地盤沈下の範囲及び程度

予測項目は、軟弱地盤上への盛土等による地盤の変形の範囲及び程度とする。

### 2) 予測方法

造成計画の整理、地質の調査結果を基に、地盤沈下発生の可能性の有無について既存知見等を参考に定性的に予測する。

### 3) 予測地域・地点

予測地域・地点は、計画地及び周辺とする。

### 4) 予測時期等

予測時期は、供用時（工事が完了した時期）とする。

## (3) 評価

### 1) 評価方法

地盤への影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避され、又は低減されているかどうかを明らかにするとともに、地盤の保全に係る計画や指針等により定めた方針や基準等と予測結果との間に整合が図られているかどうかを明らかにする。

### 2) 環境の保全に関する配慮方針

- ・ 工事中においては、地盤沈下量、変形等を観測する。
- ・ 地盤性状に合わせた適切な工法を選定する。